

令和元年度 卒業式 式辞

耳を澄ませば、そこかしこに、春の足音が聞こえてくるこの三月。ここ高松中学校にも、旅たちの時がやってきました。八十八名の卒業生の諸君。卒業おめでとう。

さて、いま、皆さんの胸によぎるものは何でしょう。三年前、真新しい制服を着て中学校の校門をくぐった、あの新鮮な感動でしょうか。それとも、様々な活動の中、友だちと流した汗と涙の思い出でしょうか。九年間の義務教育を修了したということは、一人の人間として、生活していく土台、基礎はできたということです。しかし、いつも、温かい眼差しで見つめ、慈しみ、励まし、支えてくれた、お父さんお母さん、そして、家族や地域の皆さんの、力添えがあったことを心に留めておいて下さい。

さて、卒業生の皆さん。皆さんは、九年前に起きた「東日本大震災」の日。三月十一日のことを覚えていますか。ちょうど、君たちが小学校への入学を目前にした日のことです。東日本大震災のために、君たちと同じ年齢の子どもたちの中には、大きな悲しみの中、小学校の入学を迎えた人もいたはずです。あれから九年。義務教育九年間が修了し、中学校の卒業式を迎えた今日この日。日本にとどまらず、世界中が、新型コロナウイルスの猛威にさらされ、全世界の人々が英知をしばり協力して、その抑制に向けた取り組みを続けています。

そこで、私が今、皆さん言えることは、どんなことがあっても、決して時は止まらないということです。そして大切なのは、一日一日を精一杯生きること。その一日一日を積み重ねていくことです。そのことが必ず、自分自身の成長・幸福につながっていきます。自信をもってください。君たちは、この高松中学校の創立七十周年を迎えた年の最上級生。立派にその重責を果たしてくれました。そして、令和初の卒業生です。学年の先生方が入学した時に思いを込めてつけてくれた、学年だよりの名前「守・破・離」。その意味を忘れずに、そしてその実現のために、これからの新しい生活に挑んでいってください。君たち一人ひとりのさらなる成長を期待しています。

終わりにあたり、保護者の皆様。この三年間、本校の教育に対して、ご厚情やご協力ください誠にありがとうございます。これからも、この高松中学校の、さらなる発展を見守っていただき、側面からのご協力をお願い申し上げます。以上をもちまして、卒業生八十八名の限りない前途を祝し、また、感謝を申し上げ式辞といたします。